いきいき行田人（ぎょうだじん）

アパレル業界で培ったセンスと提案力で新たな農業に挑戦

田島　尭迪（たかみち）さん（小針・26歳）

現在、市内には約20件の花き農家があります。業界全体で高齢化が進む中、数少ない若手就農者として奮闘しているのが、田島尭迪さんです。

祖父の代から続く花き農家に生まれ育った田島さんは高校卒業後、アパレル（衣料）業界に就職。販売店で約5年勤め、センスと接客技術を磨き、平成28年に退社しました。当初は、何となく家業の花き農家の後継ぎとしての一歩を踏み出しましたが、商品となる花を育てていくうちに前職の経験を生かすことができると感じるようになったといいます。「アパレルの仕事では、お客さんにコーディネートを提案することが多々ありました。その人の好みや着ていく状況などを考えて喜んでもらえる提案をすることは、お客さんがどのように花を飾るのかを考えることと似ています」と田島さんは話します。現在は、市内でも育てているところが少ない黄色い巾着状の花がかわいらしいカルセオラリア・ハッピーバルーン、純白の小さな花が密集したスーパーアリッサム・スノープリンセスなどを育てています。鉢物として長く楽しめる花々の栽培を目指しています。

田島さんは、見識を広げようと平成28年7月には、埼玉県農林公社による第37回埼玉県青年海外派遣研修に参加。県内の青年農業者ら10人とともに、オランダとドイツの農家などを見学しました。「私が訪れた農場は若い人が農業に携わっているところが多く、また自社の農場に販売所やカフェを併設するなどマルチな経営をしていて驚きました。生産するだけでなく直接消費者と接することで商品に安心感を持ってもらい、リピーターを生んでいました。研修で、既存のやり方にとらわれない新たな農業のあり方があることを気付かされ、アイデア次第で成長できる農業というビジネスに大きな可能性を感じました」と振り返ります。研修後、これまで以上に植物を「知る」努力をしているという田島さん。新たに液肥を導入し、植物の種類や状態によって使い分けたり配合を変えたりと、試行錯誤する日々を送っています。

今後の展望について「常に謙虚にひたむきに花づくりに取り組み、まずは現在栽培している花一つ一つの質を高めていきたい。いずれは、自分にしかできないと自信を持って世の中に送り出せるような商品を作れるようになりたいです」と語る田島さん。やる気に満ちた若き花き農家の挑戦は始まったばかりです。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

富士見町　鈴木スイ子
筆太の兜太の句碑や春かなし

谷郷　大谷　峯生
薄氷に冒険のあり小さき靴

富士見町　森　節子
巣立ちゆく部屋賑やかに雛飾り

谷郷　羽石　芳道
蕗の薹漫ろに歩く土手の端

南河原　今村　文女
夫逝きて手続き数多二月尽

荒木　藤田　栄之
晩年を確と受け止め目刺焼く

忍　大澤　由子
きびしさに立向かひたるしだれ梅

荒木　藤田　明枝
歩かねば錆つく躰春田道

矢場　高田みつ子
金目鯛煮汁も馳走春の宿

城南　橋本千枝子
ときめきは余生にもあり城の春

須加　原　智郁子
音もなく明けたる村の雪景色

城西　青木　洋子
よちよちと歩む初孫犬ふぐり

須加　天沼　広吉
一木に遅速ありけり梅の花

持田　伊藤　洋子
探梅の道に洩れ来る三味の音

佐間　須永　節子
琴の音も帯も艶（あで）やか梅まつり

持田　二瓶　弘子
雛の間に正座す小さき膝がしら

荒木　髙澤よね子
足の癒え待つかのやうに梅咲けり

持田　小倉　繁三
肩寄せて風に耐へたる黄水仙

西新町　青木　泰山
梅真白反戦かかげ兜太逝く

谷郷　馬場　勇
霜柱針千本のごときかな

（三沢　一水　監修）

はじめまして

★★★ 平成29年 4月生まれ のおともだち ★★★

平成29年6月生まれのお子さんを募集します

○4月2日(月)～27日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、5月2日(水)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

斉藤　吏生（りお）ちゃん（持田）
平成29年4月8日生まれ
父・健児さん　母・博美さん
「お友達を思いやる優しい子に」

長谷川　朝陽（あさひ）ちゃん（佐間）
平成29年4月16日生まれ
父・悠佑さん　母・ゆきこさん
「毎日沢山の笑顔ありがとう」

小野寺　郁（いく）ちゃん（忍）
平成29年4月8日生まれ
父・朋寛さん　母・薫さん
「元気にすくすく育ってね」

滝田　莉乃（りの）ちゃん（谷郷）
平成29年4月12日生まれ
父・純弥さん　母・直子さん
「たくさん思い出つくろうね♡」

藤野　春杜（はると）ちゃん（向町）
平成29年4月14日生まれ
父・智則さん　母・千花さん
「いっぱい食べる君が好き！」

大村　歩勇斗（あゆと）ちゃん（天満）
平成29年4月26日生まれ
父・真彦さん　母・あかねさん
「いつも笑顔いっぱいありがとう♡」

ぎょうだの会社をクローズアップ!!

株式会社とつか

アイデア光る「たび煎餅」が話題に

昭和4年11月の創業以来、80有余年にわたり新町商店街で店を構え続けてきた戸塚煎餅店。平成28年10月に法人化し、新たなスタートを切りました。

お店には同社の代名詞である薄堅焼き煎餅「小判煎餅」を始め、常時52種類の商品が並んでいます。代表取締役社長の戸塚昌利さんは「製粉から焼き上げまで一貫した独自の伝統的手法で丁寧に作っています。国内産の上質な2種類の米をブレンドし、自社工場で製粉することで鮮度の高いまま煎餅に加工でき、米の味を最大限生かすことができるのです」と味へのこだわりについて話してくれました。また、煎餅を焼き上げる際には新潟県産備長炭を使用。生地の具合や天候によって火加減を調整しながら1枚1枚手作業で返していくことで、芯まできつね色に仕上がるそうです。

また、同社では行田在来青大豆を使った煎餅など〝行田らしさ〟を意識した商品開発にも積極的に取り組んできました。そんな中で生まれたのが足袋の形をした「たび煎餅」です。名産品である足袋に着目した戸塚さんは、市内の足袋製造業者で子ども用の足袋型を見せてもらい、煎餅の金型デザインに取り入れました。妻の世知子さんとともに何度も試作を重ね、足袋のつま先や土踏まずのカーブを再現。厚さは口触りの良い薄焼きにし、6種類の味をそろえました。完成後、日本遺産認定やTBSテレビ日曜劇場『陸王』の放送で「足袋のまち行田」が注目を集めるようになり、地元以外にも観光客やドラマのファンなどこれまであまり縁のなかった人にたび煎餅を食べてもらう機会が増えたそうです。

「多くの人に自分たちの煎餅を食べてもらい、これまで妥協せずに味を追求してきた思いが報われたように感じています。これからも新たな味や食べ歩きグルメの開発にも挑戦していきたい」と意気込む戸塚さん。まだまだアイデアが尽きないという同社の今後に注目です。

会社プロフィール

代表取締役社長　戸塚 昌利
【事業内容】米菓製造・販売
【所在地】行田11―26

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。